

**P.175 ◆質問 12番(小林義明君)**

◆12番(小林義明君)

本県の学力向上について。

申すまでもなく、教育県岡山の復活は、伊原木県政の一丁目一番地であります。おかやま創生総合戦略には、教育県復活に向け、魅力ある教育環境の整備を目指した施策の中に、子供たちの学力向上や徳育の推進があり、重要業績評価指数には、全国学力・学習状況調査の全国順位を平成27年度の小学校28位を、同31年度10位以内、中学校は41位を10位以内との数値目標を設けています。学力の向上は、教育県復活の太柱であります。本年4月実施の全国学力・学習状況調査の結果を公表しましたが、県内公立校の都道府県順位は、小学6年が31位、中学3年が40位でした。前年度の小学6年19位、中学3年34位から大きく順位を落としました。

そこで、教育長にお尋ねします。

全国順位が大きく下がった原因をどのように分析していますか。数字だけ見ると、一向に改善の成果があらわれていないと読み取れます。PDCAサイクル的に言うと、改善方法が間違っているとの指摘もあります。この指摘に対する感想もあわせて聞かせてください。

さらに、この間、すなわち27年度から全国学力・学習状況調査の都道府県順位で、常に秋田、石川、福井県が上位にいます。それはなぜですか。教育長、この3県の学力が高い理由をどのように分析しているか、聞かせてください。その分析結果を生かして本県の学力向上のための改善を行った事例があれば、教えてください。

本県の子供たちは、既に学習した知識や技能を活用して解決を図る力が劣るとの結果であり、考える力や読解力が劣るとの分析も聞きます。教育長に、重ねて尋ねます。

イマジネーション(想像力)やクリエイティビティ(創造力)を育む読書、図書教育について、本県の現状と取り組みを、児童生徒1人当たりの図書費、新聞購読の有無、児童生徒の読書時間、**学校図書館**司書の配置状況について答弁ください。これらの数値は、他の都道府県と比べ、どのような状況にありますか、お聞かせください。

子供たちの読書の習慣は、学校だけで身につくものではありません。家庭、学校、公立図書館(生涯学習)が連携してこそその読書習慣と考えています。三者連携のための施策をお聞かせください。そして、教育長、改めて本県の学力向上に向け、改善方策と決意を答弁ください。

**P.176 ◎答弁 教育長(鍵本芳明君)**

◎教育長(鍵本芳明君)

お答えいたします。

学力向上についての御質問であります。

まず、全国学力・学習状況調査のうち、原因分析等についてであります。教員が児童生徒の学習内容の理解の状況を秋の段階で再度把握し、理解が不十分な児童生徒への補充指導を学年末までに行った上で進級させる取り組みが徹底できていなかったことが今回の結果の原因と分析しております。これま

で、授業改善や補充学習、家庭学習習慣の定着等に取り組み、小学校では、昨年度までは改善傾向があらわれていたことから、取り組みの方向性は間違っていないと考えておりますが、特に中学校については、こうした取り組みを徹底するための手法を改善していかなければならないと考えております。

次に、上位県の分析等についてであります。お話の3県においては、授業の基本的な進め方について、教員間で共通理解が図られていること、授業改善の中核となる教員が配置され、日常的に指導に当たっていること、学習内容の定着を確認しながら確実に積み上げていること、そして何よりこうした取り組みがどの学校でも徹底されていることが成果を上げている要因と分析しております。本県では、こうした3県の取り組みを参考に、岡山型学習指導のスタンダードの作成や授業改革推進リーダー等の配置、学習到達度確認教材の作成などの取り組みを行ってきたところであります。

次に、読書・図書教育のうち、現状等についてであります。本県の児童生徒1人当たりの図書費は1,697円、新聞を購読している小中学校は45.4%で、いずれも全国平均を上回っております。また、授業時間以外に1日当たり1時間以上読書をする小学生は18.7%、中学生は15.9%で、全国平均並みとなっております。さらに、**学校図書館**司書の配置小・中学校は90.8%で、全国平均を大きく上回っております。本県では、読書活動を充実させるため、子供たちのお勧め本を紹介する「おもしろ読書事典」や、読んだ本の内容や感想を記録する「読書手帳」の活用、授業開始前の朝読書の実施等に取り組んでいるところであります。

次に、家庭・学校・公立図書館の連携についてであります。県教委では、図書館職員や教員、読書ボランティアが一堂に会し、実践を共有したり、子供の読書活動への支援のあり方を協議する読書活動推進連絡会を設け、家庭・学校・公立図書館の連携の促進について話し合っております。こうした中でノーメディア週間を設定し、学校は家庭での読書を子供たちに促し、図書館は親子読書コーナーを設置し、保護者は子供と図書館を利用するとともに、家庭でテレビの視聴等を控えるなど、三者が連携した取り組みを進めている地域もあり、このような活動を普及することで、子供たちの読書習慣の一層の定着を図ってまいりたいと存じます。

次に、改善方策と決意についてであります。小中学校ともに教員が児童生徒の学力定着状況を単元ごとに把握し、補充指導等により学習内容を確実に定着させる取り組みを、市町村教委と連携しながら徹底してまいります。また、中学校では、家庭学習時間が少ないことから、指導主事等を各学校に派遣し、生徒の実態をもとに、家庭学習時間を増加させる方策について議論し、教員の共通理解を図りながら、改善に向けての取り組みを徹底してまいります。いずれにしても、市町村教委や管理職と危機感を共有し、教育県岡山の復活に向け、結果を出せるよう全力で取り組んでまいります。

以上でございます。